# 忠笹語

上帙
五丹

尾上梅幸校合

13
2378
273

特
遠13
2378
272

# 垂井おせん操るの狂言 一筆斎歌作 溪齋英泉畫

# 昔語忠義之朱達滿前編 上冊

文政十二丑之春
新編稗史誌販 正栄堂壽櫻



楚書曰禁國の八宝とする物は唯善以貨財。併有ざる。假初の器の為に忠孝義烈全き人の性命を失へるものと謂へり。遺憾に堪ざる者とやいへん實に止戈戎得ざるを亦古よりなきこと童も言へるとど。朱達擘の由緒は狂言綺語の一端とする戲墨にせよ元の歟達擘れ皮実一物に有無を紹ぐ知よりそ糸れ其もあるを灰ふ美濃の国井ゐる所専ら皮も音曲演戯して屢聞る一節ひの。傳言浪花の戯場に頃伊助が義勝の情状を嵐璃寛ゥ打扮く。看官の眼を驚せ稀ゥ仕組の名作ちさ燈籠竜と共ゥ世にわるく。盆前の衣裳ゥ。曙染は雑劇のゥ主者とゥ成ゥ元祿のれチ行ゥ地流行小唄を集ゥ。松の葉と乎草紙有其外ゥ成補綴して松の落葉ゥ号。半太夫ゥ語るのて。多国井おせん物狂ひ東降の一頃ひの。大ゥ一ゥ嘘ゥ。皮ゥ伊助に托せゥ人ゥ遊ゥ莫今大人ゥ忠義の傳ゥ附會ゥ。新ゥ勇者の智足ゥ。是ゥ仁綴ゥ教ゥ別傳の譚ゥ。不立文字の繡像を看も孩児に示ゥ耶ゥ。恐の以心ゥ伝ゥ仁変生如何。仁変生如何。

文政十二丑孟春發行

筆庵主人識

管領
木曽川
大夫
勝基
見る
初さくら
乙州
孝養行
多月
江山有
霊
清水寺の児亀之輔
後
木曽川家小性
稲木勝馬

義経へ道勝安の
子松枝丸
危峰嶮路沍寒時
樹精神白玉姿
雪直陽和催物色
方方復發回年枝
溪齋題
前髪
散る
きくら
瑤池
志侠全璧蘭
義士肇金魯
坂松浪人
大澤雲右衛門
信忠

一枝秡頼甘
身易
五斗何為恨
禄微
錦臺鎮圓
深松庵
石水
僕の
隷
里見
意助
郷上和水
真十郎

左把

緑為園林催
淑氣不知
歳月減
殘生
濱名宗金の家隷
向山圖書

松の落葉 元禄十六年之
おせん物狂ひ

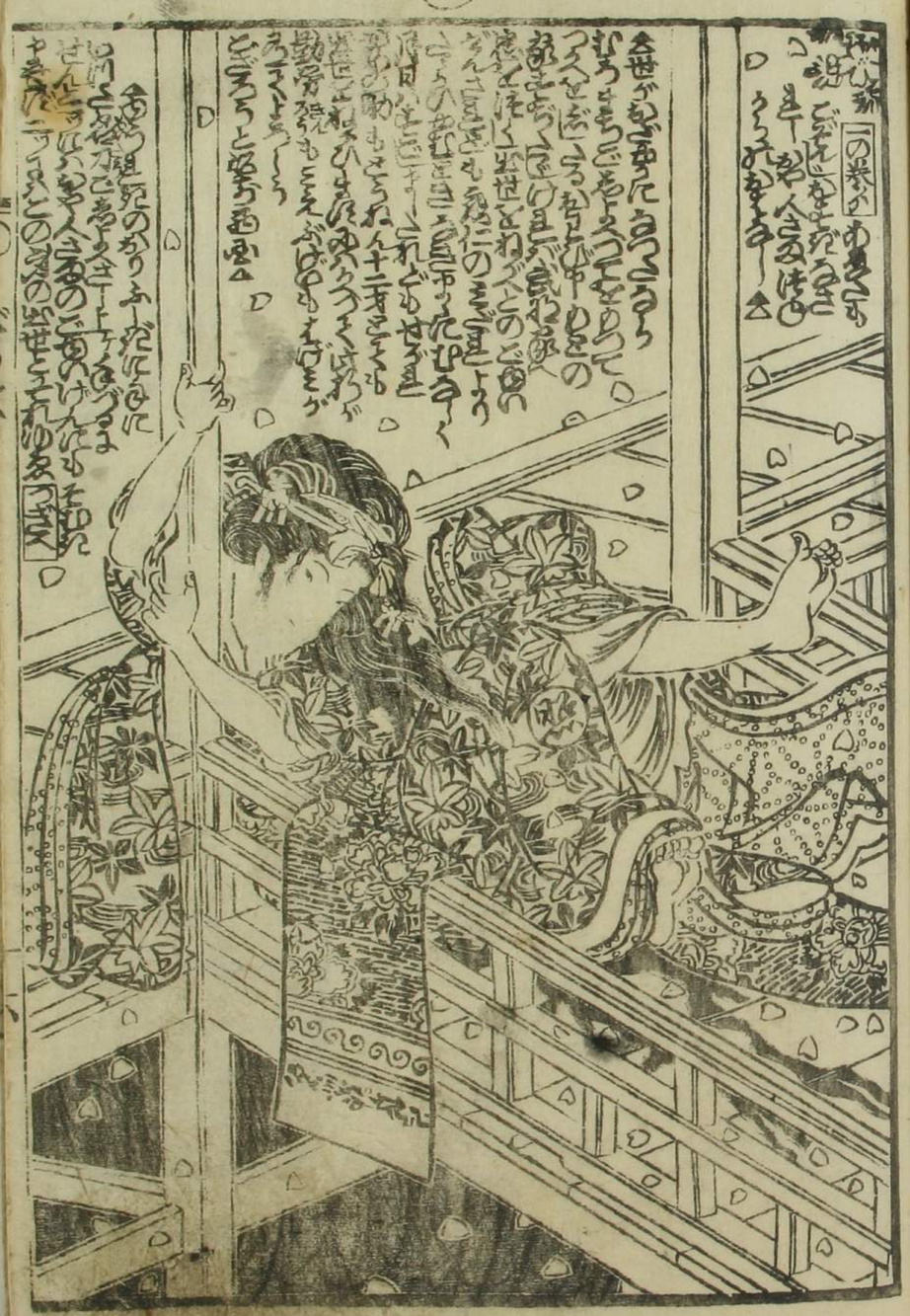
淡景有情添柳色
微風無意落梅花
晋子
彩月
山
多留井
於専
意助
妹
於くみ
組

居合抜歯薬屋帰三郎
実ハ阪松浪人
姥雪冬平次
雲津陀太八
阿房三太

帰三郎女房
小田井

三光有影誰能勤
萬事無根只自分
雪隱鷺鷥飛始見
柳藏鶯鵡語方聞

世諺



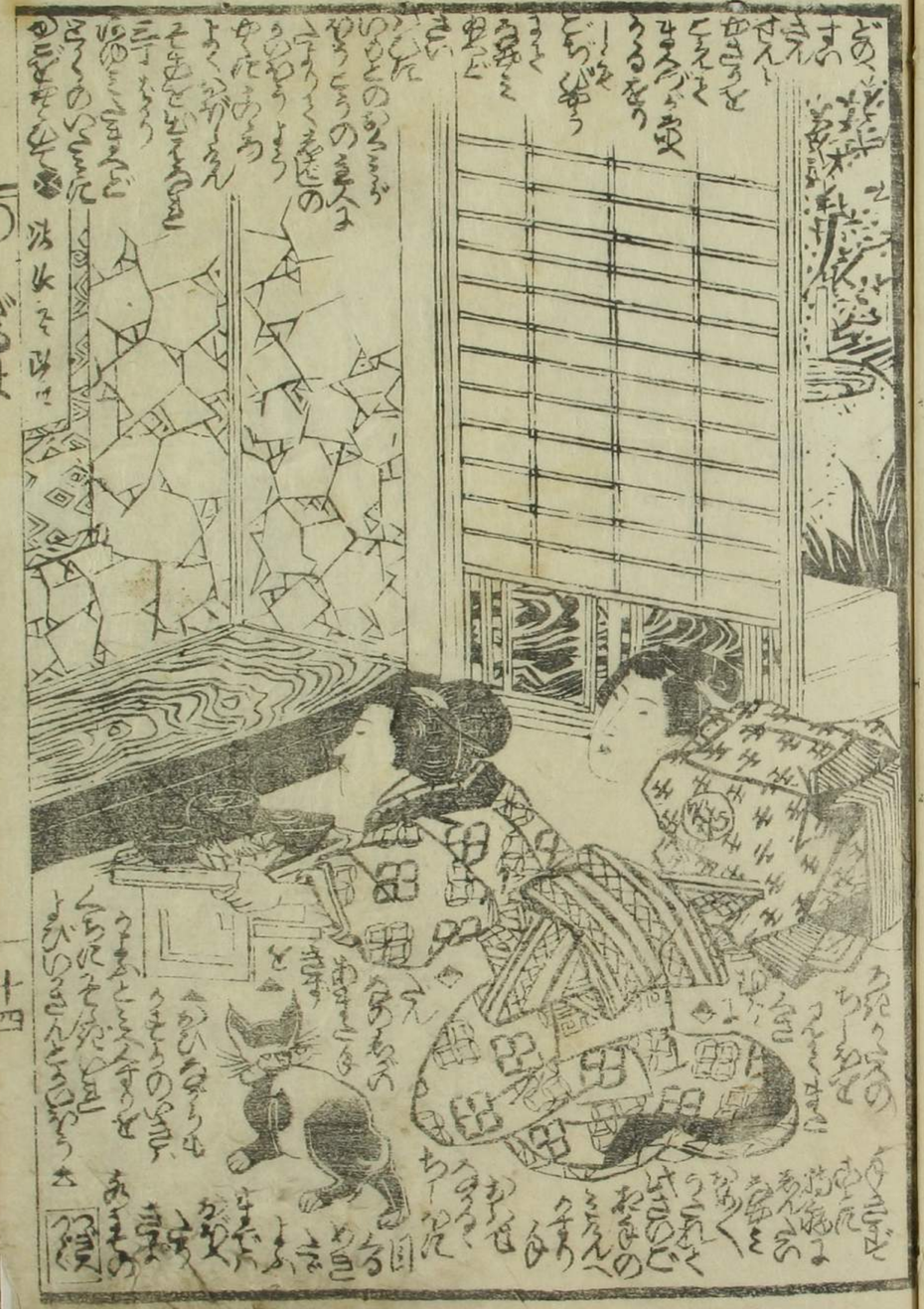
真葛原

三の巻へつづく


晴雨両天傘　價白張大形　金貳朱　同小形　銀六匁
但　色々のるる金貳朱

美玄香　一貝代四十八銅
○白髮染藥黑油

美艷仙女香　右三種賣弘所　南傳馬町三丁目　坂本氏精製



# 義朱子留満

一筆庵戯作

溪齋英泉画

前編

正榮堂 川口正蔵板

一筆庵戯作

# 者郎左衛門義朱

## 通俗源平盛衰記

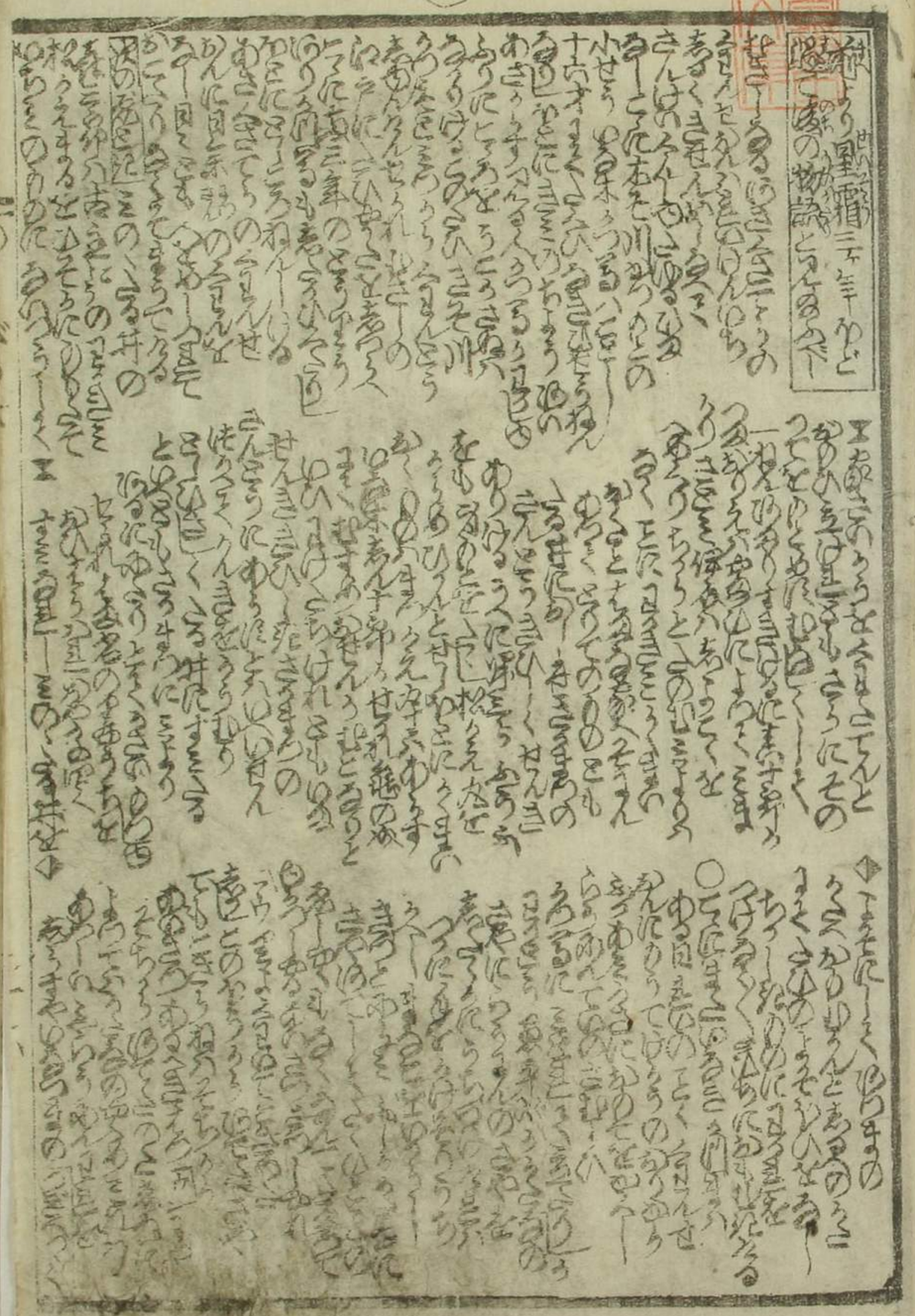
下冊

絵像稗史全本十冊

丑春發兌　正榮堂上梓



三宅文庫



美玄香
仙女香
坂本屋
取次仕
本法返魂丹

入歯
細工
日中御療治所

一筆庵主人戯作

浮書
紫嶺舎
仙橘




七十三 尾上岩藤 代牛五衛 **取合三組盃** 全八冊 山東京山作 歌川國貞画

**稗史水滸傳** 初編六編 山東庵京山作 歌川國芳画

一筆庵主人作

**昔語忠義朱足満** 前後十冊 溪齋英泉画

**仇競意氣路鮫鞘** 全六冊 式亭鹿之助作 北尾重政画

**尼城豪傑五虎猛勇傳** 初編六冊 曙川亭壽作 北尾重政画

**いろは藝** 初編二編四冊 全 東西庵南北作 再刻同 画

美艷仙女香 一記 美玉香 一記 坂本氏

**冬錦** 地本錦繪問屋 京橋銀座四町目 川口正蔵板